

(社福) 四ツ葉福祉会が 新型コロナウイルス感染症対策として取り組んでいること

障がいを持つ方たちの「感染予防」を進めていくために必要と思われる整備を進めています。

予防対策設備及び備品整備

・「オゾン発生装置」の設置

人体に安全な低濃度のオゾンが新型コロナウイルスを『不活化』することが確認されています。また、PM2.5も除去効果、季節性インフルエンザにも効果があるようです。発生装置を各事業所内に設置しました。特に食堂は、マスクを外す必要があるため、大型の発生装置を設置しています。

・高機能体温計の導入

非接触体温計を昨春から導入しています。

朝・昼の検温を欠かさず行い(全利用者、全職員)、平熱より高い方には再度”接触型“で検温して確認しています。早期発見・即対応を心がけます。

・自動水栓(手洗い場)の拡充

部分的に導入していた非接触型(自動水栓)の手洗い場の設置個所を大幅に拡充しました。非接触型手洗い石鹸、手指乾燥機なども一部導入しています。

・パーテーション各種の設置、外来者の制限

飛沫防止対策として、各所にパーテーションを導入(受付、事務所、面談室、会議室等)しています。

来訪者については、玄関で健康チェック表記入・検温をして頂き、基本的に県外在住者、県外往来者は入館をお断りしています。また、利用者様・職員以外は居住棟スペースには入れない形をとっています。

安全対策

・医療との連携体制を強化

当法人の嘱託医・産業医である小林医師(小林医院院長)と連携し、発熱時の適切な対応(診断→検査)を行い、検査結果(陽性・陰性)がいち早く分かる体制を整備しました。

・『PCR スクリーニング検査体制』の導入

無症状な方を対象とした”スクリーニング(選別・ふるい分け)“を目的とした検査キットを準備、検査体制を導入しました。県外往来者(職員・利用者)や、濃厚接触者と指示されなかったが不安のある場合に、安全を確認するために利用します。

現場の感染リスクを最大限抑えるために活用していきます。

・高濃度消毒液の確保

79～81%の消毒液を多量に確保しています。日常の手指消毒に使用し予防しています。感染が入った場合は、あらゆる消毒を高濃度の消毒液で行うため、多量の消毒液が必要となります。

この他、職員・利用者様には、他県への外出や他県の居住者との接触を制限しています。また、公共交通機関の利用や不要不急の市内外出も制限しています。

設備や体制整備だけでは、感染症予防は万全ではありません。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。